

JAL闘争を支える京都の会News No. 71

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

21 春闘勝利！京都総決起集会で JAL 争議団がアピール

3 月 27 日、「21 春闘勝利！京都総決起集会」が京都市内で開かれ、JAL 争議団もアピールをおこないました。ユニオンネットワーク・京都が主催しました。

最初に「非正規労働者の均等待遇を実現しよう」と題して中島光孝弁護士が講演をおこないました。次に「JAL 争議団」の神瀬麻里子さんがアピールをおこないました。

神瀬さんは「私たちの闘い、解雇されて今日で 10 年と 86 日になった。去年まる 10 年にあたっては絶対 10 年目は超したくない、11 年目は迎えたくないということで、必死でがんばったつもりであるがまったく JAL は動かなかった。本当に悔しい。今日は 3 点ポイントをしばって話させていただきたい。一つ目はまず争議団の今の動きをご案内したい。いったい 10 年かかって何で解決できないのだろう。JAL は 3 年前に解決に向けて動き出すと言ったはずなのに、なぜそこを動かしていないのだろうということで、1 月、2 月、3 月と原告団集会を開



いてその総括、そしてこれからどんな方針を持ったら良いのかを話し合っ、前を向いてがんばろう、次の目標は 6 月株主総会で社長に解決を報告させようじゃないかということで今がんばっているところである。今、コロナで 8 万人を超える人が解雇されていると言われている。争議もたくさんおこなわれている。私たちの争議だけがひとり勝ちするわけは絶対はないので皆と手をつないでがんばっていこうということを確認している。この 10 年間、私も自分のできることをこ

つこつやってきたつもりであるが、本当に悔しい。絶対に解決させるつもりで不退転の覚悟でいる。この 1 月にまた、緊急事態宣言がだされた。関東の方では品川にある本社前で月曜日から金曜日、大きな取り組みがある日以外は毎日 12 時から 13 時まで本社前アピール行動をおこなっている。そちらも 1 月 7 日の 205 回目を最後に中断していたが、今月 21 日に宣言が終了したので、さっそく 22 日と 24 日は 206 回目、207 回目の本社前宣伝をおこなった。今月からは火曜日は国会前で宣伝をしようということが決まり、23 日火曜日は国会前で宣伝をしている。

そして 25 日木曜日は JAL はオリンピック・パラリンピックの公式スポンサーなので、公式スポンサーがこんな差別的でひどい解雇をそのまま 10 年間放置しているとは何ごとか、ということでオリンピック・パラリンピックの組織委員会前での宣伝をしている。国民支援共闘という大きな組織があつて支援していただいているが、その 11 回目の総会が 2 月 17 日にリモートで開催された。そのニュースに JAL 闘争を支える京都の会の駒井さんの発言が載っている。そんな感じでがんがん攻めていくつもりである。出かけるにはどこへでも出て行って JAL の悪さを広めていきたい。JAL がこの争議を解決せずにコロナを乗り切れるはずがないと思っている。私たちの解雇以降、内部留保も 1 兆円超えている。今こそ労働者のために内部留保を吐き出す時ではないかと訴えていきたい。

2 つ目のポイントとして去年に今頃はなかった動きとして国会での動きが高まっている。これがどこから始まったかという去年 9 月 24 日に院内勉強会を開いた。そちらに議員と秘書の方、合計 39 名が参加していただいた。やっぱり、これはおかしいのではないかということが超党派の自民党から共産党までの議員の方の共通した意見であつた。自分たちも何かしようではないかということ



ことで、超党派の有志国会議員の方が厚労省を呼んでヒヤリングをしてくれたり、内閣に質問趣旨書を出していただいたりして、11 月 26 日には JAL を呼んだ。社長あてに来いという要請書を送ったにもかかわらず、やってきたのは事務方の二人だった。国会議員の方も怒っておられて、もう 1 回呼んでみましょうということで、4 月 26 日にもう 1 回出て来いということで、JAL の会長と社長あてに要請書を送っているが、未だにコロナで忙しいからちょっと待ってくれという情けない返事をしているそうである。いつまでも困っていないでもう解決する時ではないかと思う。なかなか出てこない JAL に業を煮やして国会議員からのメッセージというものを書いていただいてこれで会社にプレッシャーをかけているところである。このように国会での動きも進んでいる。最後にご報告したいのは春闘ということで JAL の労働組合もがんばっている。



私の所属するキャビンクルーユニオンは 2 月 15 日に大会を開いて要求を決定し、動けば必ず世の中は変えられるということを確認した組合大会であつた。春闘の団体交渉は 5 回おこなわれたが、やはり会社もゼロ回答というわけにはいかなかったと思う。大きな

回答は出ていないが、職場の悩みに応える要求実現・回答がいくつかあつた。やはり職場の中に闘う組合があるのはとても大切だと感じた。私たちの解雇以降、客室乗務員は 6000 名以上が採用されている。パイロットは 386 名である。その一方で 165 名は置き去りである。現役 CA の食べていけないという問題と私たちの争議は根っこは、働くものを大切にしない、そして労働組合つぶし、それは同じなので、この両輪でこれからもがんばっていききたい。これからはよろしくお願いします。」と述べました。集会後、参加者は四条河原町下るまでデモ行進し、河原町通りでは神瀬さんがマイクを握って JAL 不当解雇の問題を市民に訴えました。